

**平成22年3月期 第2四半期  
会社説明資料**

**平成21年11月**

**株式会社プラコ -**

**( J A S D A Q . 6 3 4 7 )**

平成21年9月末現在

商号	株式会社 プラコ -
本社	埼玉県さいたま市岩槻区笹久保新田550番地
代表者	代表取締役社長 秦 範男
設立	昭和35年8月
資本金	1,252百万円
売上高	2,981百万円 (平成21年3月期実績)
従業員	76名

昭和35年8月	プラスチック工業(株)を創立(資本金100万円)
昭和36年8月	埼玉県川口市に新工場を建設、押出機及びプロ - 成形機を本格的に生産開始。
昭和42年10月	東京都港区に本店を移転。
昭和45年5月	埼玉県岩槻市(現・埼玉県さいたま市岩槻区)に浦和工場を新設。
昭和47年1月	商号を株式会社 プラコ - と改称。
昭和47年11月	埼玉県川口市に本店を移転。
昭和48年2月	日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。
昭和48年11月	株式額面変更の為、江東機工株式会社と合併。
昭和55年5月	プラコ - エンジニアリング(株)設立(機械部品加工会社、平成18年4月吸収合併)
昭和62年7月	静岡県掛川市に工場用地を取得。
昭和63年7月	埼玉県岩槻市(現・埼玉県さいたま市岩槻区)に本店を移転。
平成3年5月	静岡県掛川市に掛川工場を新設。
平成7年1月	(株)プラコーテクノサービス設立(メンテナンス会社、平成18年4月吸収合併)
平成9年4月	リサイクル装置の生産、販売に本格参入し、リサイクル元年とする。
平成13年3月	埼玉県の彩の国指定工場に認定される。
平成16年12月	(株)ジャスダック証券取引所に上場。
平成18年4月	4月1日付けをもって連結子会社2社を吸収合併
平成20年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)設立。(機械製造会社)
平成21年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)解散。

## 1. インフレーション成形機事業

当部門において、フィルム製品（レジ袋、ゴミ袋、農ポリ、ラップ、多層、機能）を成形する為のインフレーション成形機を製造及び販売をしております。

## 2. ブロ成形機事業

当部門において、中空製品（自動車部品、工業用部品、日用雑貨品）を成形する為のブロ成形機を製造及び販売をしております。

## 3. リサイクル装置事業

当部門において、環境の一環でありますリサイクル装置（破碎機、洗浄機、乾燥機、造粒機等）を自社技術と一部を海外メーカーとの技術提携によって、製造及び販売をしております。

## 4. メンテナンス事業

当部門において、機械のメンテナンス及び部品の販売をしております。

**平成22年3月期 第2四半期  
決算概要**

**株式会社プラコ -**

( J A S D A Q . 6347 )

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融、経済危機による景気の低迷や、企業収益の悪化に伴う設備投資の抑制や雇用情勢の悪化が続き全体的に厳しい状況でありました。

当社の関係するプラスチック加工業界及び環境関連業界においても、景気の低迷や自動車の減産により設備投資が減少し、厳しい経営環境でありました。

このような状況下、販売面では、受注を最優先と考え営業人員を増員し、また、社内展示会や顧客へのローラー作戦による受注に努めた結果、前期の後半期と比べ大幅な契約増加となりました。また、生産面では、引続きコスト削減に努めました。

以上の結果、当第2四半期累計期間においては、売上高は一部納入機の検収のずれや、ユーザーの事情による納期のずれなどもあり10億3千6百万円と前年同四半期と比べ3億5千万円減（前年同四半期比25.3%減）となりました。利益面につきましては、売上高は減少したもののコスト削減及び固定費の減少などにより損益分岐点が改善されたことから赤字幅は縮小し、営業損失7千7百万円（前年同四半期は営業損失1億4千9百万円）、経常損失9千7百万円（前年同四半期は経常損失1億8千万円）、四半期純損失1億5百万円（前年同四半期は四半期純損失5億5千3百万円）となりました。

# 損益計算書（非連結）



（単位：百万円）

	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	前期比	備 考
売上高	1,386	1,036	350	自動車関連の部品成形用プロ - 成形機の減少
売上原価	1,071	829	242	
販売費及び一般管理費	464	284	180	人件費及び一般経費の削減 販直費(運賃荷物造費・輸出諸掛費)の減少 業務委託費の削減
営業利益	149	77	72	コストダウンと固定費の削減により収益性が向上
営業外収益	6	5	1	
営業外費用	37	25	12	借入金残高の減少などによる支払利息・手形売却損 の減少13百万円
経常利益	180	97	83	
特別利益	0	1	1	
特別損失	435	5	430	前期棚卸資産除却損・評価損 158百万円 前期減損損失 263百万円
法人税、住民税及び事業税	62	3	65	法人税等調整額の減少65百万円
当期純利益	553	105	448	

# 貸借対照表（非連結）



株式会社プラコ

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	増 減	備 考
流動資産	1,841	680	1,161	現金及び預金残高の減少 売上債権の減少 たな卸資産の減少
固定資産	946	798	148	土地の評価損
資産合計	2,788	1,479	1,309	
流動負債	2,099	1,054	1,045	短期借入金の減少 仕入債務の減少
固定負債	795	592	203	長期借入金の減少
負債合計	2,894	1,647	1,247	
資本金	1,205	1,252	47	株主割当増資に伴う増加
資本剰余金	3	50	47	株主割当増資に伴う増加
利益剰余金	1,477	1,594	117	
自己株式	4	5	1	
株主資本合計	273	297	24	
評価・換算差額等合計	167	128	39	
純資産合計	105	168	63	
負債純資産合計	2,788	1,479	1,309	

# キャッシュ・フロー計算書（非連結）



株式会社プラコ

（単位：百万円）

	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	比較増減	備 考
営業活動による キャッシュ・フロー	18	45	63	売上債権の減少及び仕入債務の減少とたな卸資産の減少
投資活動による キャッシュ・フロー	9	276	285	定期預金の解約及び有価証券売却による収入
財務活動による キャッシュ・フロー	191	311	119	短期・長期借入金返済による支出及び株式発行による収入
現金及び現金同等物の 増加額	182	80	102	
現金及び現金同等物の 期首残高	453	154	298	
現金及び現金同等物の 期末残高	271	74	196	

# 部門別売上高



株式会社プラコ

(単位：百万円)

部 門	21年3月期 第2四半期		22年3月期 第2四半期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	増減率
インフレ - ション成形機事業	450	32.5%	596	57.5%	145	32.2%
プロ - 成形機事業	348	25.2%	178	17.2%	170	48.8%
リサイクル装置事業	410	29.6%	116	11.2%	293	71.6%
メンテナンス事業	176	12.7%	144	13.9%	31	17.9%
合 計	1,386	100.0%	1,036	100.0%	350	25.3%

インフレ - ション成形機事業

設備投資が厳しいなか、一部大型機の改造等もあり、増加しました。

プロ - 成形機事業

自動車生産の減産による影響が大きく、需要が急激に減少しました。

リサイクル装置事業

廃プラスチックの価格低落と景気の後退により、一軸破碎機の設備投資が減少しました。

メンテナンス事業

設備の新規導入の減退と需要低迷に伴う機械稼働率の減少により部品販売も減少しました。

# 平成22年3月期 業績予想

株式会社プラコ -

( J A S D A Q . 6347 )

# 業績予想（非連結）



(単位：百万円)	21年3月期	22年3月期 (予想)	増	減
売上高	2,981	2,379		602
経常利益	181	26		207
当期純利益	604	19		623
EPS (円)	76.95	1.09		78.04

EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

## 経営方針

当社は、インフレーション成形機及びブロー成形機などのプラスチック成形機と、環境リサイクル機器の製造、販売を主たる業務として、社会生活の向上と環境保全に役立つ商品を提供する事によって、社会に貢献すると共に、適正利益の確保により企業の継続と発展を目指し、さらには、株主への適正配当と従業員生活を安定、向上させることを方針としております。

## 今期の取り組み

### 債務超過からの脱却及び時価総額の改善

当社は、当第2四半期累計期間において、営業損失77,910千円及び四半期純損失105,215千円を計上することになりました。なお、平成21年度3月末に165,127千円であった債務超過は、当第2四半期には四半期純損失を計上し、平成21年8月3日に株主割当増資94,441千円を行いました。債務超過は損失分が増加したため168,706千円となりました。また、株式時価総額3億円基準に抵触しておりますので、当社はこれらの事象または状況を解消すべく以下の通り諸施策を実施いたします。

#### (販売促進施策)

- 配置転換による販売従事人員の増加
- 社内展示会における新商品紹介
- 業界新聞、雑誌上での新商品紹介
- 客先へのローラー作戦の展開による新規顧客の獲得
- 部品、メンテナンス工事の受注増加努力

#### (生産コストダウン施策)

- 設計面からの過剰仕様、過剰品質の削除
- 国内外の仕入先との交渉による仕入コストダウン
- 海外調達、海外生産の拡充
- 生産性向上を目標とする生産システムの見直しと改善による生産コストダウン

#### (固定費削減施策)

- 労務費の削減
- 一般諸経費の見直しと削減
- 月次固定費を限界利益以内に抑える

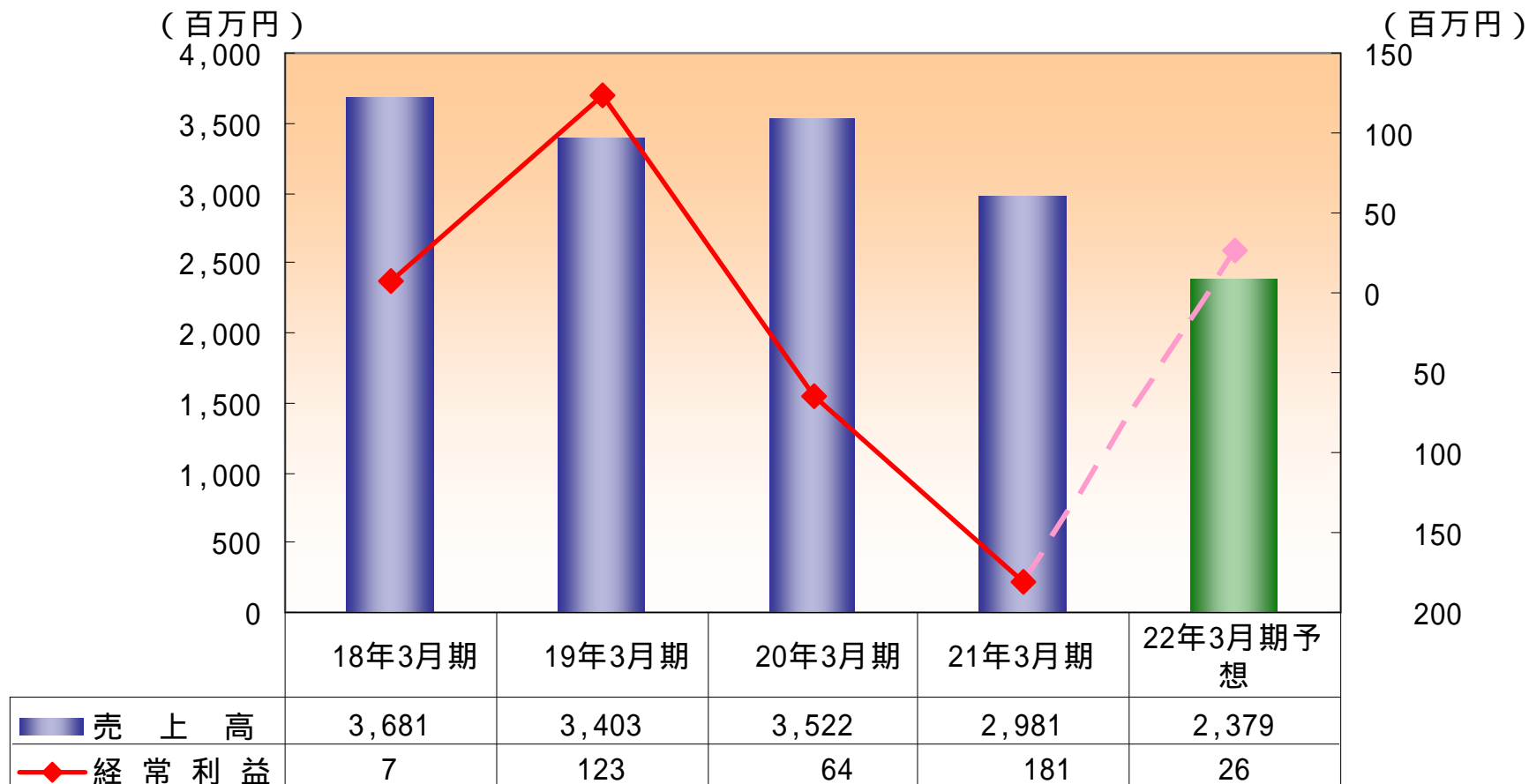
#### (財務体質強化施策)

- 有利子負債の圧縮による資金効率の向上
- 有価証券、ゴルフ会員権の売却、契約金の受領及び納入機の早期代金回収等を行います。

#### (資本増強施策)

平成21年8月3日に実施した株主割当増資に続き、さらに、平成21年11月2日に開催の取締役会におきまして、第三者割当による新株式発行を行うことを決議し、平成21年11月26日を払込期日といたしました。これにより、合計211,441千円の資本増資を行いました。この資本増額により新商品開発促進と債務超過を解消し、長期安定的資金の確保の諸施策を検討してまいります。

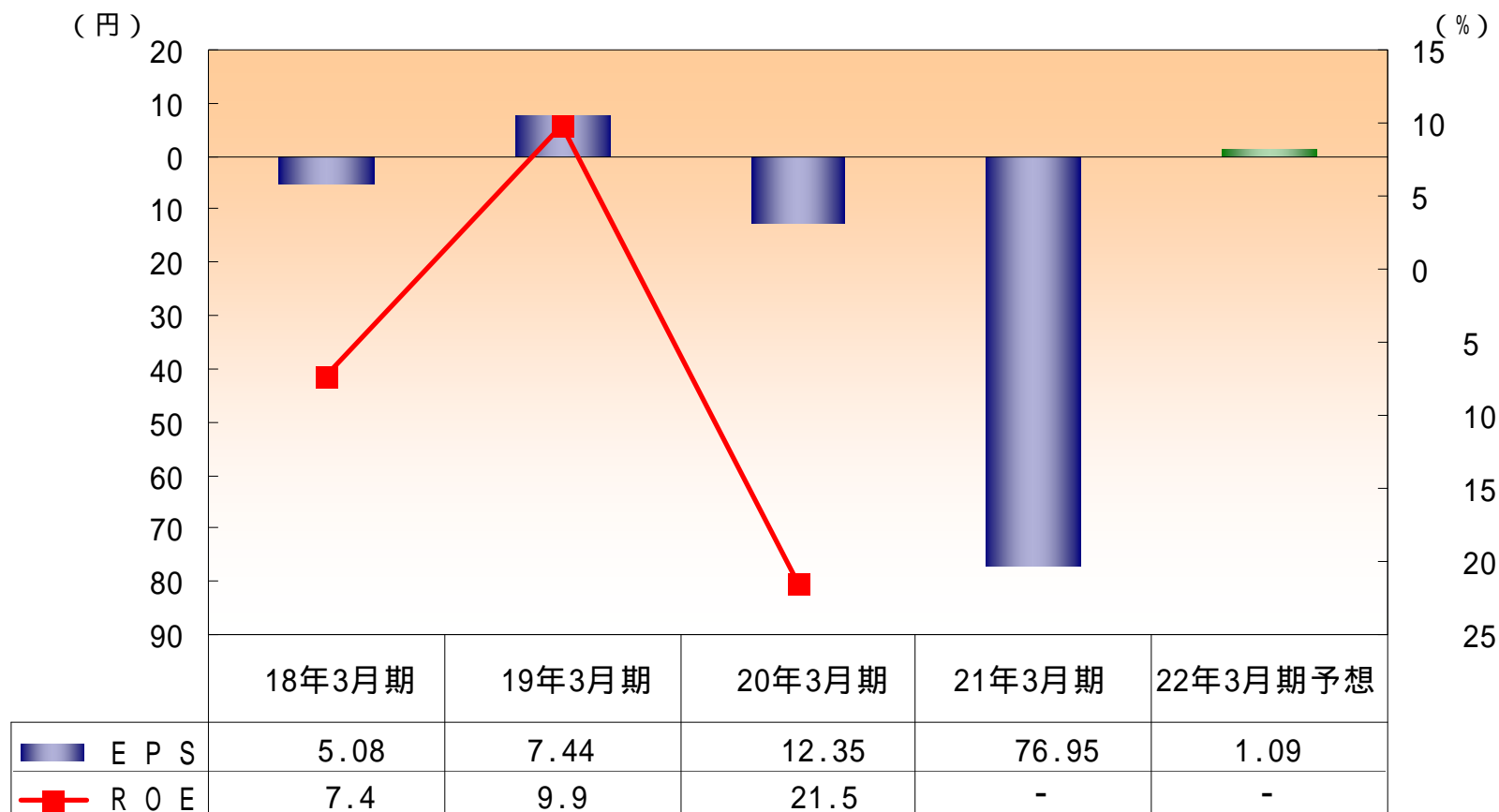
# 売上高・経常利益の推移（非連結）



18年3月期、19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

# EPS・ROEの推移（非連結）



18年3月期、19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

## 株式会社プラコ -

会社名 : 株式会社 プラコ -

担当部 : 経理部

T E L : 048-798-0222